

さいたま市立大宮北中学校

# 学校だより7月号

令和8年7月1日(水)



048(641)1214

048(641)6680(さわやか相談室)

<https://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp/>

## 学校教育目標

『人間性豊かな  
実践力のある生徒』

- ◆たしかな学力
- ◆ゆたかな心情
- ◆たくましい身体

## 文化を尊び、人を育てるまち

校長 廣江 剛

6月24日(水)～26日(金)の3日間、本校2年生が未来くるワーク職場体験事業で地域の各事業所にお世話になりました。働くことの苦勞や喜びを肌で感じ、充実した表情で学校に戻ってきました。地域の皆様の温かい御支援に、心より感謝申し上げます。

また、3年生は北陸・金沢方面への修学旅行を無事に終えることができました。加賀百万石の城下町として知られる金沢は、初代藩主・前田利家公がその礎を築いた地です。利家公は戦国の武将でありながら、国づくりにおいては武力よりも文化の力を重んじました。その姿勢はやがて徳川家からの信頼を生み、加賀藩は外様でありながらも長く安定した治世を保つこととなります。金沢の町並みに漂う落ち着いた気品や、伝統工芸に宿る美しさは、前田家が育んだ文化の土壌が四百年を経てなお息づいている証といえるでしょう。

今回の修学旅行では、兼六園や金沢城址公園の見学に際し、地元高校生の皆さんが案内役を務めてくださいました。自らの地域の歴史や伝統を誇りをもって語る姿は、地域に根ざし未来を担おうとする若者の凛とした志を感じさせるものでした。本校の生徒たちもその真摯な姿勢に触れ、自然と温かな交流が生まれてきました。人と人が向き合い、学び合う時間の尊さを改めて感じる機会となりました。

金沢での経験を通して、生徒たちは「文化とは、先人の営みを受け継ぎ、未来へと手渡していくもの」であることを実感したことでしょう。前田家が文化を守り育てたように、私たちもまた日々の学びと行動を通じて、自らの未来を形づくっていくのです。今回得た学びと出会いを胸に、これからの学校生活でも、人とのつながりを大切にしながら確かな成長を遂げてくれることを願っています。

金沢で文化の力に触れた生徒たちですが、実は本校のすぐ隣に広がる大宮公園もまた、明治の開園以来、多くの文人墨客に愛されてきた文化の香り高い名所です。明治には、正岡子規がその静かな森を散策し句を詠み、永井荷風は大宮公園を重要な舞台に設定し小説を書きました。昭和に入ると、太宰治が名作『人間失格』の一部を、大宮公園近くの天ぶら屋「天清」に下宿して書き上げたと伝えられています。近現代文学を彩った多くの文人たちが、この地の自然と静けさに心を寄せ、作品の一端を育んだのです。

金沢が前田家の文化政策によって磨かれた城下町であるならば、大宮公園は近現代の文人たちが心の憩いを求めて集った、東国文化の源流ともいえる場所です。加賀百万石の「雅」に対し、武蔵野の「静」が応えるように、私たちの足元にも豊かな文化の土壌が息づいているのです。金沢での学びと、大宮の台地に息づく文化とが響き合い、生徒たちの心により深い理解と誇りを育んでくれることを願っています。

最後になりますが、昨年から大宮公園で始まり、広く地域の話題になっていた「七夕 TANABATA ～大宮の天の川～」のイベントに、今年、本校の吹奏楽部が出演の機会をいただきました。7月4日(土)18時30分頃よりポート池付近で演奏を披露することになりましたので、お時間の許す方は、足を運び、御鑑賞いただければ幸甚です。

参考文献「大宮公園ゆかりの文学者たち」(さいたま市図書館)

